

本格的調査の開始と鷹島海底遺跡の周知

鷹島において本格的な水中考古学に関する調査が実施されたのは、昭和55年度から3カ年にわたる文部省科学研究費特定研究「古文化財に関する保存科学と人文・自然科学」（研究代表者 東京大学江上波夫名譽教授）の一環の「水中考古学に関する基礎的研究」（研究代表者 東海大学茂在寅男教授）になります。

鷹島南岸の沖合を調査した結果、床浪港と神崎港周辺において、鎌倉時代の陶磁器などが出土しました。併せて行われた地元住民が保管する採集品の調査によって、元の公用文字であるパスパ文字で書かれた「管軍総把印」が神崎港で採集されていたことも判明しています。

このような成果に基づき、昭和56年7月には鷹島の南岸東の干上鼻から西の雷岬までの約7.5キロ、汀線から沖合約200メートルまでの範囲、約150万平方メートルの海域が「鷹島海底遺跡」として周知されることになりました。

鷹島で行われた初めての緊急発掘調査

鷹島は、周囲を海で囲まれ、漁港・港湾施設が重要な生活基盤となっています。埋蔵文化財の包蔵地と周知されて以降、港湾施設を改修する際には、緊急発掘調査が実施されています。

昭和58年度に床浪港改修工事に伴う緊急発掘調査が行われました。これは、鷹島で初めて行われた本格的な緊急発掘調査です。床浪港における防波堤本体工事とその基礎となる捨石部分4千平方メートルが調査対象でした。その後、床浪港では、平成元年度、平成4年度にも調査が行われ、元寇に関連する遺物を始め、水深約25メートルから出土した例としては国内で初となる約8,400年前の縄文土器が出土しています。



▲ 床浪港改修工事に伴う緊急発掘調査
水中作業風景（昭和58年）



▲ 管軍総把印

整然と並ぶ木製椀

平成6年度から7年度にかけては、神崎港改修に伴う緊急発掘調査が実施され、多くの陶磁器、木製品などが出土しています。

特に、この調査では、水深約20〜22メートルの位置において椀4門がほぼ列をなして並んだ状態で検出されました。さらに、平成12年度から14年度に実施された緊急発掘調査においても、元軍のものとみられる陶磁器、金属製品、船材などが数多く検出されています。

元寇船が甦る

平成18年度からは、琉球大学池田榮史教授を中心に日本学術振興会科学研究費補助金による調査が始まりました。この調査によって平成23年10月、船の構造がわかる竜骨と外板が残る船体（鷹島1号沈没船）が確認され、大きな注目を集めました。

この鷹島1号沈没船の発見によって、平成24年3月に海底遺跡として我が国初の国史跡「鷹島神崎遺跡」が誕生しました。

さらに、平成27年度には、国史跡の指定範囲の東側の隣接地点、水深約15メートルの位置から鷹島1号沈没船より船体の構造が残った状態で、2隻目の沈没船（鷹島2号沈没船）が確認されています。



▲ 木製の椀



▲ 海底で発見された元の軍船（鷹島1号沈没船）の船底
（写真：琉球大学考古学研究室提供）



◆水中考古学の拠点づくり

水中考古学の先進地・鷹島

前述のように、昭和55年以来、鷹島においては、水中考古学の最先端の地として調査・研究が進められています。

現在、日本では、周知の埋蔵文化財包蔵地が約46万カ所確認され、発掘調査については約8千件が実施されています。しかし、水中遺跡とされているのは512カ所しかなく、発掘調査の件数も極めて少ない状況です。

近年調査が行われた遺跡は、倉木崎海底遺跡（鹿児島県宇検村）、相島海底遺跡（福岡県新宮町）、ファン・ボッセ号沈没海域（沖縄県多良間村）などに限ります。これから見ても、長期に渡り継続的な調査が行われているのは鷹島だけで、貴重な遺跡であることがわかります。

また、文化庁は「鷹島神崎遺跡」を史跡に指定したことを契機に、これまで不十分であった水中遺跡保護の在り方についての指針を示すことを目的に、平成25年3月に「水中遺跡調査検討委員会」を設置しました。平成28年3月には『日本における水中遺跡保護の在り方について』中間まとめが公表され、鷹島海底遺跡は「地方公共団体による水中遺跡保護に関する主な取組」の事例として報告されています。平成29年度末には「日本における水中遺跡保護の在り方について」の正式報告が予定されています。

水中考古学研究センターの役割

鷹島海底遺跡および鷹島神崎遺跡は、国内外でもその注目度は高く、我が国における水中考古学のトップランナーと言え、さらなる調査・研究の進展が期待されています。

また、市では、水中考古学の専門機関を国策で鷹島に設置していただくよう県を通じて要望を行っています。併せて、水中考古学の拠点づくりに取り組む姿勢を国内外にアピールする必要があります。

これらのことを踏まえ、市では、水中考古学研究センターを設置し、次のことに取り組むこととしています。

○水中考古学の普及および啓発に関すること

- ・水中考古学の研究に特化した専門の機関として、海外および国内の行政機関・研究機関、大学・研究者等との水中遺跡を介した共同研究のコーディネート
- ・鷹島海底遺跡における情報発信と研究成果の発信・公開

○資料の専門的調査・研究に関すること

- ・鷹島海底遺跡に関する研究テーマの提供と共同研究体制の構築
- ・諸外国の水中考古学に関する研究成果の収集と収集した情報のフィードバック

○資料の保存および活用に関すること

- ・ガイダンス施設への情報提供
 - ・出土遺物の重要文化財指定に向けた調整
- この水中考古学研究センターを設置することにより、水中考古学の拠点化へ向けてさらに前進することが期待されます。

◆松浦市立水中考古学研究センター

松浦市鷹島町神崎免146番地

（松浦市立埋蔵文化財センター内）



▲ CGにより推定復元した元寇船



▲ 出土遺物の脱塩処理